



真龍小便い

【学校の教育目標】
 ☆心と体をきたえる子
 ☆美しい心をもつ子
 ☆考えて行動する子
 ☆生き生きと学ぶ子

No.11 令和3年12月27日発行

「毎日したことしか力にならない」

校長 佐野 哲 哉

何かと忙しい師走を迎えましたが、子どもたちは落ち着いて学校生活を送っています。登校時のあいさつ、休み時間の過ごし方、黙食を意識した給食時間、縦割り班による清掃活動、高学年の委員会活動・クラブ活動、そして毎時間の授業に臨む学習態度に安定した落ち着きが見られます。子どもたちが安心して学校に通い、落ち着いて学校生活を送る姿を校長として何よりうれしく感じています。子どもたちのこの姿を支えたものは……。要因は、全校・全職員で共通理解のもと同じ取組（指導）を継続して行ったこと。具体的な取組として、5月から7月に重点的に取り組んだ「真小・学びに向かうスタイル」の「正しい姿勢ですわろう」、9月から12月に取り組んだ「真小・テストスタイル」の「見直しの力をつけよう」などの取組です。全校で、毎日の授業、毎回のテストで日常的に取り組む、「全集中」の日を設けて意識化して学校全体で取り組むとともに、児童アンケートを通して取組期間の自分自身を振り返り、以後の学習にも継続して生かすことを実践してきました。正しい姿勢で授業に臨むことで学習へのやる気や集中力がアップし、先生や友達の話「聴く力」が身につけてきています。毎日各学級の授業の様子を見ていますが、どのクラスも無駄話が少なく真剣に学習に取り組む姿が見られます。姿勢の保持は一朝一夕で身につくものではありません。重点期間だけの取組でなく年間を通して先生方が根気強く声をかけたり、子ども自身が意識して取り組んだりした成果の姿です。また、見直しの力をつける取組では、テストやプリントに名前をていねいに書いたり、むずかしい問題もあきらめずに答えたり、問われていることに正対して答えたり、問題を読み直したり、自分の式や答えを確かめたりして、テストや学習に「ていねいに向かい合い粘り強く取り組む姿」が見られるようになってきています。先日の朝学習の時間、2年生がかけ算九九のプリントに取り組んでいるとき、ある子は全問題をやり終えたあと1つずつ問題を指さし確認しながら答えを確かめ、間違いに気づいてやり直していました。3年生のある子は国語のテストで問題の大事な言葉に線を引いて答えを見直していました。子どものこういった姿こそ、全校で、同じ取組（指導）を、日常的に根気強く取り組んだその成果だと私は考えます。標題の言葉は、ある教育関係の機関誌に寄稿された文章の中に見つけたものですが、今年1年の本校の取組を振り返ると、実に身にしみる言葉です。言い換えると「毎日やったことだけが力になる！」このことを糧に、今後も積み重ねを大事にする教育を進めていきます。

一年の世相を表す「今年の漢字」に『金』が選ばれ、京都清水寺で揮毫されました。選ばれた理由として、東京五輪・パラリンピックの金メダル獲得に加え、米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平選手や将棋棋士の藤井聡太四冠が打ち立てた金字塔が挙げられています。コロナ禍で沈みがちな世相に差した一条の光というところでしょうか。来年こそは新型コロナの収束を迎え、世の中や人々の営みが輝く年にしたいものです。そのためにもこれまで行ってきた感染対策を手を抜くことなく継続していきましょう。

さて、明日からいよいよ冬休みに入ります。本日、各学級では担任の先生が、今年1年を振り返ってがんばったことや成長したこと、進級や進学に向けてこれからがんばってほしいことなどについてお話ししています。ご家庭でもお子さんの努力や成長を認めていただくとともに、ご家族で「新しい年の目標をもつ」冬休みにしていただきたいと想います。

子どもの心が豊に育ち、自己の未来を切り拓く力が身につくよう来年も教育活動の質の向上に努めてまいります。保護者・地域の皆様には、今年1年ご支援ご協力を賜りましたことに感謝申し上げますとともに、新年もかわらぬご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日	曜	1月の主な行事
1	土	元日 学校閉庁日
2	日	学校閉庁日
3	月	学校閉庁日
4	火	学校閉庁日
5	水	学校閉庁日 町成人式
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	成人の日
11	火	ワックス作業
12	水	ワックス作業
13	木	配本日
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	冬休み最終日
18	火	後期第2ステージ開始 通常日課 講話朝会
19	水	短縮日課 放課後学習 冬休み作品展（～26日）街頭指導
20	木	街頭指導
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	生活リズムチェック週間
25	火	短縮日課 交通安全指導日
26	水	短縮日課 委員会（最終）スクールカウンセラー来校
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	講話朝会 学びに向かうスタイル③開始

「ながら見守り」のお願い

児童の下校時刻に合わせて、また夏冬休み中は日中家の外に出て、庭作業や掃除などを行いながら、同時に児童の見守りを行う「ながら見守り」への協力お願い致します。

学校教育指導公開授業研の様子から

12月17日（金）に釧路教育局の平林主事、厚岸町教育委員会の廣瀬室長を招き、学校教育指導が行われました。この会の中では、3年あさがおの山田寛大先生、6年こすもすの井上祥太郎先生、1年月組の工藤崇之先生、5年月組の佐藤司先生の4名による特設の授業公開を行いました。

授業づくりでは、①「個人思考と定着の場面における指導の改善」と②「目標達成に向けた学び合いを生む手立て」の2点をテーマとして進めました。授業では、子ども達が具体物やICT機器を活用し個々の課題解決に向け活動し、自分の考えを他と交流をし、課題解決を行うというものでした。

助言者の先生からは「交流場面の目的を明確にすること」や「算数の授業は早く正確に解くこと」「具体物とICT機器活用のベストミックス」「教師のファシリテート力」「子ども達の見取り」などについて説明をいただきました。

今回の授業研を通して、学習の見通しを児童の実態に合わせて行うことで自力解決することや、交流の場で比較することで、問題の場面に応じたより良い解決方法を子ども自ら発見する方法について、検証することができました。

生徒指導研修(QU)を行いました

12月8日（水）に生徒指導研修(QU)を行いました。QU検査は今年も5月と10月に行い、今回はこの2つの結果を比較し、今後担任が子ども達とどう向き合うべきなのか、客観的にとらえることを目的に行われました。

QUの結果を考察すると、どの学級も5月に比べ「学級のルール作り」と「担任と児童、児童と児童の関係性」とのバランスが良好になっている傾向が見て取れました。この要因として、先生が子供と真摯に向き合っていることが理由の一つであることが分かります。

この客観的な結果から、今後も、子ども一人一人に寄り添い、子ども達の困り感に向き合っていきたいと思います。

全集中の日 テストスタイル編の結果

9月から真小・テストスタイル「見直しの力をつけよう」に取り組んできましたが、その結果がまとまりましたので、お知らせします。

アンケート結果は、①名前をていねいに書こう：96% ②答えをすべて書こう：96% ③答えを正しく書こう：90% ④単位を書こう：89% ⑤問題の見直し、答えの見直し：83% という達成率となりました。

また、子どもたちの記述からは、「間違い」「空欄」「書き忘れに」に気づき、得点につなげることができた。（67名/225名）という結果が得られました。

一方、取組の課題としては、「単位を忘れずに書く」「問題を読み直す」を確実にすることがあげられました。

この活動を通して、授業の中で「問題の読み直し」に力を入れていく必要があることが確認されました。今後は、学習の中で、問題で何が問われているのか把握する力や活用場面での思考する力を今後も継続して指導し、子どもたちの確かな学力の定着に取り組んでいきます。

避難訓練の様子から

12月6日（月）に火災想定避難訓練が行われました。今回は、児童には知らせずに、休み時間中に行うという、難易度の高い訓練でした。目的としては、児童一人一人が、危険を予測し、「自分の命は自分で守る」ことができるか意識を高めるためのものです。訓練では、学校中にサイレンが鳴り、子ども達は火災が起こったのではと考え、自分の身近にいる先生のそばへ行ったり、非常放送を聞いたり、どの子も落ち着いて避難行動をとることができていました。

今後はさらに、より実際に起こる状況に近づけていくため、防火扉を作動させたりするなど、子どもたちの危険に対応するスキルを高めて行ければと考えております。

赤い羽根共同募金へ寄付しました

12月20日（月）に、児童会が赤い羽根共同募金への寄付金の贈呈式を行いました。今回、児童会が中心となり、全校に呼び掛け募金活動に取り組みました。その結果、全校で16681円集まりました。集まった募金は、被災者への救済や地域福祉などに活用されるとのことです。

学校閉庁日のお知らせ

先日のお便りでもお知らせしましたが、下記の期間、学校閉庁日となります。基本学校は職員不在となりますので、電話等の対応はできなくなります。もし緊急で学校へ連絡が必要な場合は、厚岸町教育委員会まで連絡するようにしてください。

◎学校閉庁日期間

令和3年12月29日（水）～令和4年1月5日（水）

◎緊急連絡先：厚岸町教育委員会

電話：0153-52-3131

冬型の事故に十分注意してください

学校では、子ども達が冬型の事故にあわないための指導を行っています。主な内容は

○路肩に積まれた雪により見通しが悪いこと、路面凍結により車が急停止できないこと。そのため、車が近づいたら車道から距離をとったり、歩行を止めたりすること。

○屋根からの落雪に十分注意すること。

などです。冬休み中、子どもたちが事故や事件にあわずに、安全に過ごすためにも、各家庭での声掛けへのご協力を、お願いいたします。

明日から冬休み

明日12月28日（火）から冬休みが始まります。期間は1月17日（月）までの21日間です。

コロナ禍の中での冬休みとなります。規則正しい生活を心がけ、健康で元気に過ごす、良い冬休みとなることを願っております。

真龍小学校便り おすすめ本(R4.1月号)

『てぶくろ』

エウゲーニー・M・ラチョフ（福音館書店）

学校司書 小島 郁子

“冬になると読みたくなる絵本”のひとつです。

ウクライナの民話で、1年生の教科書でも紹介されています。

ある雪の日、おじいさんがてぶくろを片方だけ落としてしまいました。とても暖かそうなそのてぶくろを、最初に見つけたのは小さなねずみ。

「ここで くらすことに するわ」

次にやってきたのはかえる。

「ぼくも いれて」 「どうぞ」

ここまではわかります。

でも、その次にやってきたのはなんときつね！

しかも、このあとおかみといのししと、さらにはあの大きな〇〇までが、

「いれて」とやってくるのです！！

動物たちは、みんなてぶくろに入れたのでしょうか？

不思議な展開のお話と、個性豊かな動物たちの表情、それぞれの個性を引き立てる民族衣装の美しさが心に残ります。

先日、二十歳を過ぎた長女から、この絵本が大好きだったと聞きました。

実は、冒頭の言葉は、長女が言った言葉です。

幼い頃に何度も読んであげた絵本が、大人になった彼女の心にしっかり根付いている事を知り、とても嬉しくなりました。

学校図書館、厚岸情報館に所蔵があります。

